

2024年11月17日 召天者記念礼拝(第二)

説教題「わたしは戻ってくる」ヨハネ福音書14章27～31節

主任牧師 加藤 誠

「心を騒がせるな。おびえるな。『わたしはあなたがたのところへ戻って来る』(ヨハネによる福音書14章27～28節)

『コーヒーが冷めないうちに』という小説があります。とある街の、とある喫茶店の特定の席に座ると、カップのコーヒーが冷めるまでの間、過去の好きな時間に戻ることができる。ただし、その過去の事実を変えることはできない。その都市伝説を聞きつけた人たちが、あの時のあの人にもう一度会いたい…という願いを抱えて次々に訪れる中で、さまざまな人びとの人生が描かれていく小説です。

私たちは大なり小なり、あの時の、あの場面に戻って、もう一度やり直せたら…という願いを抱えているのではないのでしょうか。けれども、厳しいことに、私たちが生きている現実時計の針を戻せない世界です。

旧約聖書の列王記に、死の病にかかったヒゼキヤ王が神に向かって「寿命を延ばしてください！」と嘆願する場面があります。神はヒゼキヤの願いを受け入れて、その約束が確かであることを示すしるしとして日時計の針を十度戻されたのでした。このエピソードを受けてある牧師が次のように書いていました。わたしは三浦綾子の小説『氷点』の一場面を思い起こした。夏枝が村井と密会していた時に、自分の娘を幼児殺しに殺されてしまう。夏枝は河原に走っていき『もし戻せるなら時間を戻したい』と嘆くのである。非常に厳しい『時間』というものが問われていると思う。時間は一度過ぎたら再び戻らない。しかし、それを元に戻す世界が実現した。キリストの十字架である。キリストの十字架だけが日時計を十度後ろに戻してくれるのである。」

皆さんはこの文章をどう受け止められるのでしょうか。わたしは「うーん、どうだろうか」と思い巡らす中で、次のように考えました。主イエスは「時計の針を戻してもう一度やり直させてくださる方」というよりも、「時計の針を戻せない世界を生きる私たちに命と希望を与えてくださる方」ではないかと。

「時計の針を戻してもう一度やり直させてもらえる」。それは過去に犯した失敗をなかったことにする。自分の「黒歴史」を消しゴムできれいに消すことができる…ということでしょう。確かにそれが可能ならば、私たちにとって大きな救いです。しかし、イエス・キリストの救いは「そういうものではない」のではないかと。

主イエスは、十字架の受難など無かったかのように「きれいな身体で」弟子たちの前に復活したわけではありません。十字架の釘跡が深く残る身体で復活されました。弟子たちの裏切りの大失態は無かったかのように消去されたのではなかった。しかし復活の主は、信仰薄く情けない弟子たちに、神の愛、聖霊の愛と赦しの息吹を吹き入れ

て彼らを「生きる者」としていただきました。

先ほど一緒に読みました聖書箇所は、十字架にかかる直前の主イエスと弟子たちとの会話の一部です。ここで主イエスは二つのことを弟子たちに約束しています。一つは「わたしは平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える」という約束。もう一つは「わたしは去って行くが、戻ってくる」という約束です。「去って行くが」というのは、「わたしは十字架で殺され、墓に葬られて、あなたがたとはもう会えなくなるが」という意味です。主イエスは弟子たちの裏切りのゆえに十字架の苦しみを受けて、死ぬ。私たちと同じように墓に葬られる。**The End.** ふつうはそこですべてがおしまいです。次のページはない。しかし主イエスは「またあなたがたのところへ戻ってくる」と言われる。殺され、捨てられた怨念と怒りを抱えてでしょうか。いわゆる幽霊は、怨念と怒りを抱え、復讐するためにこの世界を徘徊する。怨念と怒りの火は消えないからです。だから私たちは幽霊を恐れる。心騒がせ、おびえる。しかし十字架の主は違う。十字架の主は人間の力では決して消すことのできない怨念と怒りを十字架の上に釘付けにし、神の赦しと愛と平和を携えて、私たちのところに戻ってこられる。ここに「この世が与えるのとは異なる、十字架の主だけが与えることのできる平和」があります。そして、主イエスを裏切り、見捨ててしまい、自らの罪に泣き、暗い部屋に閉じこもっていた弟子たちは、この十字架の主の愛と赦しと平和の聖霊の息吹を吹き入れられて生きる者とされ、暗い部屋の扉を開けて外の世界に歩みだしていきます。過去の重大失敗は消せない。しかし重大失敗を覆う神の深い愛と赦しによって、新しい命を生きる者とされていったのでした。

私たち人間は何度もつまずき神を裏切ります。いや神だけではない。大切な人を裏切り、傷つけ、取り返しのつかない言葉をぶつけて菅家巖壊してしまう本当に弱者です。そのために、私たちの世界には嘆きと悲しみと、それだけでなく、怨念と怒りがあふれています。幽霊が歩き回り、憎しみと報復の連鎖を断ち切ることができない。

しかし主は、その私たちが神の平和を受け取って「新しい人」として造り変えられるために、赦しと平和を携えてまた「戻ってくる」方です。

先週、大井教会を会場にしてルワンダで和解と平和のために働く佐々木和之さんのフォーラムが開かれました。今から30年前の大虐殺によって深く傷つけられた人びとの心を癒し、和解と平和の働きに立ち上がらせていく。その根源的な力は、聖書の十字架の主イエスによってもたらされていることを、さまざまな証言から聴くことがゆるされました。私たち人間の力では、和解を造り出すことはできない。人びとの心から怒りや憎しみを取り除き、深い傷をいやすことはできない。十字架において、私たち人間の罪を引き受けてくださった方だけが、弱く信仰の薄い者たちに間に和解と平和の道を切り拓いてくださるのです。